

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00285

研究課題名（和文）近世中後期上方の読本制作における史書・地誌の影響に関する研究

研究課題名（英文）Research on the influence of historical texts and regional geographies on Yomihon production in Kamigata during the middle to late early modern period

研究代表者

藤川 玲満（Fujikawa, Reman）

お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授

研究者番号：20509674

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：近世中後期の上方における読本制作の特質とその事情について、同時代の学芸の潮流との関連を捉える目的で、作品における歴史的事項の題材と、それに関する近世期の研究・文献からの影響に着目した解明を行った。政治・社会・文化史的事項を描く作者や、南北朝の動乱、文禄・慶長の役を描く読本を検討対象とした。結果として、史伝の主題や時事に対する戯作者の態度とその表出の技巧等、読本作者による研究史の受容と創作における認識の投影の一端が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、江戸で制作された稗史ものの読本に比して文学性の点で評価が低かった上方の読本について、制作事情に即した解釈を加えたものであり、複眼的な評価や作品群の位置付けの再考に資する研究成果であると考えている。また、作者の関歴・文芸圏と近い位置にある同時代の学術研究の気運との関連を具体的に検証したものととして、隣接領域とも連なる学芸の情勢と文壇の認識・知識体系の解明に資する意義があると考えている。

研究成果の概要（英文）：We conducted an analysis of the distinctive characteristics of Yomihon production in Kamigata during the middle to late early modern period. This study focused on historical themes and the influence of contemporary research and literature, aiming to explore their relationship with the scholarly trends of the era. We examined authors who depicted political, social, and cultural histories, as well as works that address the conflicts of the Northern and Southern Dynasties and Hideyoshi's invasions of Korea. As a result, we have elucidated aspects such as authors' reception of historical scholarship and their creative projection of awareness, including their attitudes toward historical themes and current events, along with their narrative techniques.

研究分野：日本近世文学

キーワード：近世文学

1. 研究開始当初の背景

近世中後期の読本界では、『絵本太閤記』(寛政9年刊)の盛行を端緒に歴史素材を扱う系譜の作品が重要な位置を占めるようになる。報告者は、そうした歴史素材を持つ一種である「図会もの」の創始者秋里籬島による『源平盛衰記図会』『保元平治闘図会』『前太平記図会』等の形成方法の解明を行ってきた。その過程において、従来これらの作品に指摘されてきた読本としての創作性の低さについて、これが作者の持つ一貫した歴史叙述の態度に起因するものであり、その態度とは、謬説や虚構の混入に注意を払い、歴史の事実性に立脚しようとするものであることを明らかにしてきた。

そして、こうした態度の背景に推測できる、作者の周辺での歴史的な題材への眼差しと関心が解明すべき問題として考えられた。あわせて、秋里籬島の図会もの読本の原拠の一種に参考本が指摘されていることなどから、読本制作と同時代の歴史研究の気運との関係も注視すべき点と思われた。

2. 研究の目的

読本作品の形成について、小説ジャンルをはじめとする文芸の枠内にとどまらず、作者の著述環境や意識の点で無関係ではあり得なかったと言える近世中後期の文壇・学芸の潮流との連繋の観点を加えて総体的に検討することにより、従来なされてきた趣向や創作の巧拙による評価では捉え切れていなかった、内容形成の事情と意味を見出すことを目的とした。そのことによって、時代環境に即したよりの確な解釈をすること、そして、読本史上および、より広い領域の見地からの再評価を行うことが可能になると考えた。

3. 研究の方法

主に次の点を眼目として調査研究を行った。

(1)政治・社会・文化史の主題や素材に対する戯作者の態度・関心とその表現方法の解明

作者の関歴・著述活動の性質や位置付けにも着目しながら、総体的かつ網羅的に題材の取り扱いや趣向を明らかにし、これに基づいて手法や作者の態度の特性を解明した。

(2)歴史事項の主題をめぐる読本の制作事情の解明

歴史上の個別の事象に焦点を当てながら、これらに対する作者たちの同時代的な認識、知識体系と創作の志向の特性を、読本制作の事情・環境との相互作用と合わせて検討した。また、戯作者の活動における歴史素材と地誌・読本との関係を考察した。

4. 研究成果

(1)政治・社会・文化史の主題や素材に対する戯作者の態度・関心、表現方法に関して

浜松歌国と手塚兎月を検討対象の作者とした。ともに、その読本作品が江戸の稗史ものの影響下にあることを指摘される作者であり、歌国はまた、地誌的随筆である『撰陽奇観』や、歌舞伎作品の著述もある。

歌国については、素材源・原拠とした作品との対照が可能な『忠孝貞婦伝』(文化10年刊)と『駿河舞』(文化11年刊)を取り上げ、ストーリーや趣向の形成方法の実態と独自性・特質を、その要因や作者の意図とあわせて解明した。『忠孝貞婦伝』は、新田義興の横死とその遺臣を描く福内鬼外作の浄瑠璃『神霊矢口渡』(明和7年初演)を素材源とし、『駿河舞』は並木正三作『傾城天羽衣』(宝暦3年初演)原拠に足利時代の武将たちと東山文化を描き、ともに歴史上の事象を主題や素材に取り込むものである。この調査研究では、素材源・原拠の作品を用いる際の手法上の試みとして、『忠孝貞婦伝』では新規のストーリーに原拠の要素を投影させる方法、『駿河舞』では原拠のストーリーを踏襲しながら新規の要素を組み入れて重層化を図る方法が明らかとなり、加えて、趣向をめくり、後年の歌国作品を含めた著作間連関の可能性を見出した。これらの成果は、読本作者における史伝の主題に対する認識や態度、および文化・時事・巷談への関心についての解明の一環として位置付けられる。

兎月については、江戸の稗史ものの流れを汲む上方作者と位置付けられてきたことに留意し、鎌倉政権・北条執権下を描く歴史小説『絵本鎌倉新話』(文化6年刊)、『都鄙物語』(文政12年刊)をはじめ、兎月作品13点を網羅的に対象として趣向と素材の取り扱いを検討し、作者の著述活動の基底にある態度と、これを表現する手法を解明した。この調査研究では、作品の構想や印象に中国の史話を利用することと作者の主張との関係、政治史を軸とする筋運びのなかに社会史・文化史の素材を撰取する創作方法、趣向の改変・反復などによる著作間連関、モデル・人物造型・伏線などのストーリー上の機能に関する試みを見出した。そして、作者の態度としては、勸懲や因果に加えて、忠孝論などの思想的な主題を独自に打ち出していく積極的な志向が明らかとなった。これらは、江戸の稗史ものと同様であるとは言い切れない、上方作者による歴史小説の執筆態度の一端を見出した成果である。

(2)歴史事項の主題をめぐる読本の制作事情に関して

歴史事項の主題として、近世期の歴史研究において重要な位置を占める南北朝の動乱と文禄・

慶長の役に着目し、これらを描く読本の調査研究を行った。南北朝の動乱に関しては、山田得翁齋（初編）・速水春暁齋（2・3編）作『絵本楠公記』（寛政12年～文化6年刊）を検討対象の中心とした。文禄・慶長の役については、秋里籬島作『絵本朝鮮軍記』（寛政12年刊）の形成を検討した。

近世期の『太平記』受容史上に位置付けられる『絵本楠公記』については、先行研究に指摘される典拠類と照査して記事の加除の実態を明らかにし、構成における内容の取り合わせの志向や、ストーリーの打ち出し方とその意味を見出した。併せて、読本作者における歴史素材と地誌・読本との関係を、秋里籬島作『河内名所図会』（享和元年刊）等の古戦場や諸将の記事から検討し、先行書物への依拠の態度と人物への着眼や論評の特質を見出した。

近世期の史観の展開においても注目される朝鮮軍記物のなかに位置付けられる『絵本朝鮮軍記』については、先行研究で種本と指摘される姓貴作『朝鮮軍記大全』（宝永2年刊）と照査して、叙述の付加・改変や筆致から形成の実態と作者の著述態度を明らかにした。この調査では、『朝鮮軍記大全』のほかに実録の節齋散人著『朝鮮征伐軍記講』（明和8年成）にも依拠することが明らかとなり、本作の作者が実録を利用する傾向を見出した。そして、歴史の主題への読本作者の態度の一つとして、史観の表出に関する姿勢、秀吉への評価と史実の認識、先行作からの摂取内容の編集、話材・素材源を織り込む際のストーリー構成の手法、作者自身の伝記と叙述内容との連繫を捉えた。

上述の成果は、先行の戦記・史書等を参看して文学（読本）作品を生成する事情を解明することにより、読本作者たちの学術研究の受容と、執筆活動（創作）におけるその認識の投影を捉えたものであり、文壇における前近世の事象に対する評価や表現の動向の解明に資すると考えている。

本研究課題の成果をふまえた今後の展望として、さらに歴史事項の対象を加えて俯瞰的に上方の戯作者たちの作品群を精査し、後期読本における叙述の特性を解明していく必要があると考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 藤川玲満	4. 巻 138
2. 論文標題 『絵本朝鮮軍記』考	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国文	6. 最初と最後の頁 pp.53-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤川玲満	4. 巻 135
2. 論文標題 手塚兔月作読本考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文	6. 最初と最後の頁 pp.1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤川玲満	4. 巻 22
2. 論文標題 浜松歌国作『忠孝貞婦伝』『駿河舞』考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 清心語文	6. 最初と最後の頁 pp.15-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------